**照明年報　執筆要綱**

照明年報は，調査対象期間（該当号刊行年の1年前の1月～12月）における照明・視覚・光放射およびこれら関連分野の科学技術の進歩・発達の状況を広く国内外にわたり調査し，科学技術動向を理解する上で参考となる学術研究成果，技術発表，法規・規格類，統計データ，学会活動などを記事としてまとめて会員読者に伝えるものである．

執筆者はこの執筆要綱に従って，1年間の状況を大局的観点から限られたページ内で簡潔・明瞭に記述し，単なる文献紹介や製造実績紹介にならないよう留意する．

**1．調査対象期間**

調査期間は対象年の1月～12月までの1年間とする．但し，照明学会および関連団体の活動に関する第12章では，関連団体の総会資料等を基にして執筆するため，調査期間は活動周期である4月から翌3月とする．なお，前年以前の年報に未掲載事項はその限りではない．重要事項で前年度年報に脱落したものは遡って補う．特に，照明学会で発表された事項（論文，全国大会，支部大会資料，公開研究会資料等）は記載漏れがないように留意する．

**2．記事の著作権への対応**

記載された記事の著作権は照明学会に帰属する．但し，著作権が学会に帰属しない図表や写真については，その所在をしめすコピーライト（Ⓒ）を図キャプションに，若しくは章末別表に関連情報を必ず明記する．また登録商標については，Ⓡを右上添え字で記載し，脚注に登録商標であることを明記する．写真の著作権は撮影者にある場合が多い．第8章・第9章では章末別表に写真撮影に加えて照明設計・建築土木設計・施主に関する代表機関名を掲載することができる．その他の章で写真撮影以外の関係機関名を掲載希望する場合は，基本的に図キャプションに掲載することとなるが，主査・幹事会・事務局との調整が必要な場合がある．

執筆者が他の媒体等から図表や写真を転載する場合，原則として執筆者は個々の図表等について本要綱末尾にある「転載許可願」に必要事項を記載し，原稿提出と同時期に事務局へ提出する（本要綱末尾には，「転載許可願」の記入例（学術雑誌および商品紹介情報）があるので，参照すること）．但し，照明施設賞受賞施設写真は募集時に既に本会が掲載許可をとっているので，転載許可の手続きは不要となる． また照明器具などの写真で，年報委員会において委員所属機関の転載許可確認が取れるものについては，転載許可願の手続きを簡略化できる場合もあり，執筆者はその旨を主査に確認する．

執筆者は極力Webからの図表や写真の転載を避ける．但し，著作権法第32条第2項に準ずるものについてはこの限りではない．すなわち，広報資料など国若しくは地方公共団体等の機関が作成したものや，エネルギー白書など一般に周知させることを目的として作成されたもの等については，転載許可が必要でないことが多い．海外の機関が作成したWeb資料については，国によって著作権の取扱いが異なる．例えば米国の場合は，米国著作権法第105条により，政府職員が職務上作成した著作物には著作権が成立しないケースが多い．但しこの場合も，原則として執筆者が著作権に関する記載を確認する．なおWebからの転載においては，出典URLと年月日アクセスを必ず明記する．

事務局は執筆者が提出した「転載許可願」に基づき，著作権を有する団体等に転載許可手続きを行う．その際に使用する転載許可願は，著作権を有する団体等の要求に応じて，印刷文書もしくはPDFファイルで提出する．転載許可願の返信希望日時は，依頼先の所属機関の都合を確認した上で，事務局が連絡をする日から概ね2週間後に設定した上で，事務局が記載する．返信された署名年月日入りの転載許可願は，事務局にて保管する．

**3．文献の引用**

**3.1. 文献引用の基本的考え方**

照明年報は，調査対象期間の関連分野における科学技術の進歩・発達の状況を国内外にわたり収録するものである．記載する情報の引用元である参考文献を必ず明記する．

原則，調査期間（第12章以外の章は対象年の1月～12月、第12章のみ団体活動周期の4月～翌3月を認める）に発行された原著文献を引用する．但し，研究紹介などを記述する過程で，対象期間前の文献を引用する必要がある場合は，それを妨げない．

本文中に紹介した文献内容を引用する場合は，必ず原著文献を参考文献で紹介する．引用の際の著作権を侵害しないための注意事項として，一編辺りに対する記述は，研究課題と目的，簡単な結論程度とするが，結論に至る過程は避け，おおよそ 200 字以下を目安とする．なお文献リストから辿ることのできる著者名・企業名・文献名などは本文に表記せず，その文献で記述されている知見や新技術について紹介する（例えば，「〇〇氏は・・・について報告した」と著者名を表記せず，「・・・に関する研究報告がなされた」のように表記する）．

外国語の文献は，原著に記載された“abstract”等をそのまま訳して記事にしてはならない．

照明学会全国大会など研究発表会梗概集の報告資料は，査読を経ておらず内容が変更される可能性もあるため，照明年報で詳細に紹介することは適さない．できるだけ学術雑誌の査読論文を引用し，研究発表会梗概集からの情報が大半を占めないようにする．

個別の商品紹介にならないように表現に留意する．商品名は記入せず，商品・品揃え等の表現は使用しない．但し，各章の主査の判断で，「製品化」「上市」「リリース」という表現を用いてもよい．

ホームページを引用する場合，学術雑誌と同様に参考文献に記載する．但しホームページは恒久的情報ではないため，ホームページの引用は極力避けることを推奨する．ホームページの引用においては、一件毎にURLと共にアクセス年月日も記載するが，1つの節に複数のホームページ引用がある場合は，執筆時点の年月日アクセスを1つにまとめて表記しても構わない．

法律の名称は，正式名称を記載する（例　環境省，平成29年度版環境統計集）．本文中に数度出現する名称で，冒頭以外は略して記載する際は，オフィシャルに使われている略称を記載する．

**3.2. 参考文献の記載方法**

本文中の引用箇所の右肩に10)のように上付きで番号をつけ，原稿の最後に参考文献として番号順に一括して掲載する．ホームページの引用も，参考文献の通し番号として本文中に上付きで番号をつけて，参考文献として掲載する．

各章各節の文献リストは，次の①～⑥に準じて記述する．電子文献をリストに記載する場合は，科学技術情報流通技術基準｢参照文献の書き方（補遺）電子文献参照の書き方｣を参照するhttps://jipsti.jst.go.jp/sist/handbook/sist02sup/sist02sup.htm.なお，ズームアップ記事の文献リストは「寄稿のしおり（一般号）」に準ずる．

① 執筆者名

・日本人名は，筆頭者の姓だけ記載し，複数の場合「ほか」とする．

・外国人名は，Family name，Middle name，First name の順に書く．First name，Middle nameはイニシャルのみ記載をする．それぞれの先頭文字は大文字とし，それ以外は小文字とする．Family nameとMiddle name の間は「,カンマ」で区切る．省略したFirst name，Middle nameには，ピリオドを付ける．執筆者が複数の場合は，「et al．」とする．

　　　記載例：Pirc,M.N. et al.：Electronics, 8-3, p.343 (2020).

　　　記載例：Pirc, M. N. et al.: Electronics, 8-3, p.343 (2020).

氏名の,.の間にスペース，:は半角で右にスペース

・執筆者が明確でない場合は，執筆者の部分に発行所を用いてもよい．

② 表題

・表題は記載しない．

③ 雑誌名

・「国内雑誌和文・英文略号一覧表」，「外国語雑誌名略号一覧表」による略号を使用する．表にない場合は，原則として略さない．

④ ページ

・雑誌は年間の通しページを用いる．

・複数のページは pp.○-○で表し，単数のページは p．○で表す．JISはページを記載しない．

⑤ 新聞

・朝刊，夕刊の別を記載する． また発行年月日を明記する．

⑥ 記載の順

・雑誌・論文の場合　 番号）執筆者名：雑誌名，巻一号，発行所，ページ(発行年).

・口頭発表の場合　 番号)執筆者名：大会名，ページ(発表年).

・単行本の場合 番号)執筆者名：書名，発行所，ページ(発行年).

・編著の場合 番号)執筆者名：書名，編者名，発行所，ページ(発行年).

・小冊子などの場合 番号)発行所：書名，ページ(発行年).

・JIS の場合 番号)JIS 名称(年) .

・新聞の場合　　　　　　番号)○○新聞朝刊(発行年月日).

・電子文献の場合1) 番号)DOI 10.1248/ yakushi2020.106.1\_1(発行年).

・電子文献の場合2)J-Stage 番号)https://doi.org/10.1248/yakushi2020.106.1\_1(発行年).

・ホームページの場合　　番号)https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r01/pdf/full.pdf(年月日アクセス)

**4．原稿の書式**

A4 版，縦使い，横書き，29 字×30 行（870 字）を 1 ページとして作成する．これは学会誌 1/4 ページ分に相当する．原稿はページ番号を付けて，テキストファイルまたは Word（MS 明朝体）で提出する．

**5．量記号・単位記号**

量記号と単位記号は，原則として国際単位系（SI）に準拠する運用とする．具体的な記号および運用方法は，JIS Z 8202「量記号，単位記号および化学記号」，JIS Z 8203「国際単位系およびその使い方」，JIS Z8000シリーズ（量及び単位、光に関する内容は主としてJIS Z8000-7(JIS Z 8000-7 量及び単位−第7部：光)に記載）および CIE・IEC 共通の国際照明用語集を参照する．SIで使用が推奨されない単位に言及する必要がある場合は，SIに換算した値および単位を併記する．

助数詞として、ランプ は「灯」，照明器具は「台」，ポールは「基」とする．

数字と数量・数式の単位の間は半角スペースを入れる（例えば20 lx）．パーセント（%）はSI単位ではなくSIとの併用が認められた記号であるが，数字と記号%の間に半角スペースを入れる（例えば85 %）．平面角の単位である度(°)、分(′)、秒(″)については，半角スペースが不要である（例えば45°）．なお単位記号の間の半角スペースで改行されないように注意する．

照明器具の直径を記述する場合は，直径という用語と共に単位も記述する（例えば直径80 mm）．このとき，φ80 mmのように直径をφと表記することは避ける．但し表中に記載する際はその限りではない．

べき乗については，右上添え字およびスラッシュで表現する．但し、スラッシュを複数用いることは避ける．例えば次のように表記する．「m^2」は「m2」，「cd・m-2」は「cd/m2」または「cd m-2」，「W/m2/sr」は「W/(m2 sr)」または「W m-2 sr-1」．

立体と斜体を記号の意味に応じて厳密に使い分ける．数字および単位記号は立体で表す．量記号および変数を表す記号は斜体で表す。また，量記号に付随する添字は，物理量又は変数を示す場合は斜体，それ以外の場合は立体で表す．このほか，数学的演算を表す記号（例えば三角関数）および数学で用いられる定数（例えば円周率）は立体で表す．

**6．専門用語・略語**

**6.1. 照明に関連する専門用語**

照明学会誌に使用する専門用語は，原則として，照明学会編「照明専門用語集 増補改訂版(2007)」，JIS Z 8113「照明用語」，照明学会HP｢LED照明器具に関する正しい情報Q&A(https://www.ieij.or.jp/what/LED.html)｣，文部省学術用語集［電気工学編］，電気学会・電気専門用語集 No.13「照明」， IEC用語集：IEC 60050-845 Lighting，CIE用語集「CIE S 017/E: 2011 ILV：International Lighting Vocabulary」など学術的に認められたものを用いる．これらの用語集に採択されていない用語については，学術分野において一般的に使用されている用語を用いる．

光源はJIS の表現に準じて「白熱ランプ」，「ハロゲンランプ」は「白熱電球」，「ハロゲン電球」，「蛍光灯」は「蛍光ランプ」と表記する．また「メタルハライド2 kWタイプ」で表現を統一する．

照明器具は日本照明工業会の表現に準じて「白熱灯器具」「放電灯器具」「蛍光灯器具」「LED器具」「自動車用器具」と表記する．

LED関連については，必ず照明学会HP｢LED照明器具に関する正しい情報Q&A｣で確認する．例えば，LEDチップ，LEDパッケージ，LEDモジュール，LEDランプ，LED光源，LED照明器具など，形状や対象領域によって用語を使い分ける必要がある．

照度について記述する場合は，単位(lx)を記載すると共に，机上面なのかフィールド面なのか，どこの照度かを明記する．

平均演色評価数の「Ra」の「a」は右下添え字にする．色の忠実性の Rfなど，専門分野によって右下添え字で表現している場合はそれに準ずる．

**6.2. その他の専門用語**

専門分野外の読者にとっても理解しやすいように，照明以外の専門用語の使用にあたっては説明文を加える．但し，照明年報はその研究・技術分野における1年間の動向を概観するものでもあるので，詳細な説明は不要であり，わかりやすく簡潔に解説することが望ましい．

**6.3. 略語**

アルファベット略語を用いる場合，まず執筆要綱別表の略語解説一覧表に記載されている略語かどうか確認する．

一覧表に記載されている略語の場合，各節の冒頭の出現では元の英文全てを記述し，以後は略語で表す．

一覧表に記載されていない略語の場合，｢日本語｣｢アルファベット略語｣（元の英文全て）とする（例えば，ブラウン管CRT(Cathode Ray Tube)）．今後広く一般にも認知されるようになったと年報委員会で判断したら，略語解説一覧表に追加する．

**7．年号**

年号は基本的に西暦を用いることとし，法律などの引用で和暦が必要な場合は，2018（平成30）年，2020（令和2）年，のように表記する．「本年」「昨年」などの用語を使わず，具体的に時期を明記する．特に「今年度」という表記は調査期間と合致しないため，使用してはいけない．

**8.脚注・句読点・数字・長音・括弧**

**8.1. 脚注・句読点**

脚注は該当箇所の右肩に＊1などの符号をつけ，原稿の当該ページの下欄に記載する．

句読点には「．（全角ピリオド）」，「，（全角カンマ）」を用いる．長い文章には，読点を読みやすく配置する．

**8.2. 数字**

数字は半角を用いる．原則として千，万などの漢数字は用いず，000のように記載する．但し，文脈によっては漢数字をしても構わない．

千，百万の位で「，（半角カンマ）」を入れる（例えば，2,500 W）．但し，色名称として使う場合は不要である（例えば，5000 K）．

**8.3. 長音**

長音表記は基本的に下記のルールに従うこととする．

(1)3音以上は語尾の「ー」を省略する（例えば，アダプタ，カウンタ，カテゴリ，クリア，センサ，スキャナ，フィルタ，フリッカ，メモリ，バッテリ，モニタなど）．

(2)間に長音を含む場合は語尾の長音を省略する（例えば，エレベータ，コントローラ，コンピュータ，サーバ，スピーカ，パラメータ，ルーバ，レーザなど）．

(3)定着した慣用がある場合は慣例に従う（例えば，アレルギー，エネルギー，オーバー，シンメトリー，スプレー，センター，タイマー，デザイナー，ドライバー，パウダー，バルコニー，ペーパー，ムービー，メーカー，ユーザーなど）．

**8.4. 括弧**

｢｣や『』を多用しないように気をつける．

**9．図表・写真**

図表や写真を掲載する場合は，鮮明なものを提供し，図表中の文字寸法は6 point程度を目安とする．また，本文中で必ず参照する．原則，モノクロ掲載であるので，モノクロでわかるように線種，記号などを工夫する．

デジタル写真が不十分な解像度の場合は印刷所から差し戻しされる場合もあるため，原稿提出時にはできるだけ解像度の高い写真を提供する．Wordなどに写真を貼らず，できるだけtiff形式（解像度の高い画像が必要な場合に用いられる形式）でzipに圧縮して提供する．jpg形式などでの提出も可能だが，解像度には十分留意する．照明年報に掲載される口絵の原寸（横85mm）で1200 pixel/350 dpi以上（モノクロは300 dpi以上）が一つの目安であるが，元々解像度が低いものは画像が粗くなるので注意すること．

調査対象年以外に撮影された写真の場合，タイトルに撮影時期も明記することが望ましい．

施設等の写真を掲載する場合，タイトルの末尾にその物件が存在する都道府県名をカッコ書きにて記載する（例えば，新国立競技場（東京都））．但し，住宅については都道府県がわかると不都合が生じる場合があるため，都道府県名を記述してはいけない．

文献から転載した図は，図タイトルの右上添え字として参考文献の番号を記載して出典元を明確にする．

口絵として選ばれた図は，図タイトルに出典元を明記する．また図タイトルの下部に説明文を130文字程度で記載する．口絵の選出は第二回年報委員会で決定されるため，説明文の準備は主査が行うが，執筆者が主査と調整の上で予め準備することが望ましい．

なお，極力Webからの図表や写真の転載は避ける．他の機関が有する著作物を利用する際は，本要綱2を熟読の上，適切な対応を取る必要がある．

**10．執筆者名・所属**

本文の末尾に，氏名と所属名を記載する（例：照明 太郎・△△産業㈱）．複数名で執筆した場合は，連名とする．

**11．その他注意事項**

執筆要綱に記載されていない事項は，「寄稿のしおり（一般号・年報号）」に準ずる．

商品名およびロゴなど，宣伝的な内容を記入しない．

委員会の判断で原稿を修正することがある．

原則，校正は組版原稿に記載して行う．校正者は組版原稿を各自で印刷出力し，修正箇所を赤字で示したPDFをメールか郵送にて事務局へ送る．

**付則**

この執筆要綱は，制定の日から実施する．

**訂正の沿革**

2018年12月21日　制定

2019年11月22日　改正

2020年11月16日　改正

2021年11月8日　 改正

※他機関が著作権を有する図表や写真を使用する執筆者は，個々の事案に対して下線部の必要事項を記入の上，この部分と下線を削除して，事務局に提出すること

　　年　　月　　日

（著作権を有する団体等）

　　　　　　　　　　　　様

 　　 一般社団法人照明学会

照明年報委員会

委員長 秋月有紀

**照明学会誌「照明年報」への****転載許可の御願い**

拝啓　時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます．

照明学会では毎年，照明学会誌「照明年報」を発刊いたしておりますが，その内容は，照明分野及び関連分野における活動範囲の項目ごとに，最近1年間の進歩発達の状況を広く国内外にわたり調査し，紹介するものです．

その記事の中に，（著作権を有する団体等）様の下記資料を転載させていただきたく，ご承諾くださいますようお願い申し上げます．ご承諾いただける場合は，本書にご署名の上，返信希望日までに照明学会事務局までお送りいただければ幸いです．

なお，転載させていただける場合，必ず参考文献等に出典元を，また写真の場合はタイトルにはコピーライト（Ⓒ）を明記致します．また二次利用は致しません．

ご不明な点がございましたら，下記事務局までご連絡のほど宜しくお願い申し上げます．

 敬具

記

**１．** **転載許可の範囲**

　　（転載希望する資料の名称・出典元・執筆者・掲載日・商品器具名・URL・アクセス日などの必要な情報を記入する）

**２． 転載する出版物**

　　2021年9月発刊予定の105巻照明学会誌「照明年報」の（章や節など，必要な情報を記載する）

**３． 本書の返信希望日**

　　 年　月　日　（この欄は事務局が記入するので空白とすること）

**４． 連絡先：**

　 一般社団法人照明学会　事務局　編集担当　竹内香寿美

〒101-0048　東京都千代田区神田司町2-8-4 吹田屋ビル3階

TEL：03-5294-0101　FAX：03-5294-0102　E-mail：takeuchi.kasumi@ieij.or.jp

照明学会HP：https://www.ieij.or.jp/

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

上記資料の転載を許可致します．

（著作権を有する団体等）

ご署名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　年　月　日

転載にあたり条件がございましたら，こちらに御記入ください．

※文献の転載許可願の作成例

　2021年 月 日

一般社団法人

日本建築学会会長　古谷誠章様

 　　 一般社団法人照明学会

照明年報委員会

委員長 秋月有紀

**照明学会誌「照明年報」への転載許可の御願い**

拝啓　時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます．

照明学会では毎年，照明学会誌「照明年報」を発刊いたしておりますが，その内容は，照明分野及び関連分野における活動範囲の項目ごとに，最近1年間の進歩発達の状況を広く国内外にわたり調査し，紹介するものです．

その記事の中に，貴学会の下記資料を転載させていただきたく，ご承諾くださいますようお願い申し上げます．ご承諾いただける場合は，本書にご署名の上，返信希望日までに照明学会事務局までお送りいただければ幸いです．

なお，転載させていただける場合，必ず参考文献等に出典元を，また写真の場合はタイトルにはコピーライト（Ⓒ）を明記致します．また二次利用は致しません．

ご不明な点がございましたら，下記事務局までご連絡のほど宜しくお願い申し上げます．

 敬具

記

**１．転載許可の範囲**

　　日本建築学会環境計論文集，Vol.82，No.735， pp.435-442，2017.05

　　論文「輝度画像を利用したブラインド制御用遮光要否判定方法の研究」（小島義包ら）における図19輝度画像と画像による遮光要否判定結果

**２．転載する出版物**

　　2021年9月発刊予定の105巻照明学会誌「照明年報」の第7章7．2昼光照明

**３．本書の返信希望日**

　　2021年5月14日

**４． 連絡先：**

　 一般社団法人照明学会　事務局　編集担当　竹内香寿美

〒101-0048　東京都千代田区神田司町2-8-4 吹田屋ビル3階

TEL：03-5294-0101　FAX：03-5294-0102　E-mail：takeuchi.kasumi@ieij.or.jp

照明学会HP：https://www.ieij.or.jp/

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

上記資料の転載を許可致します．

ご署名　　一般社団法人　日本建築学会会長

古谷誠章

　　　　　　　　　　　 　　　　2021年5月13日

転載にあたり条件がございましたら，こちらに御記入ください．

出版物への転載のみ許可します（電子媒体やインターネット掲載は許可対象外です）．

※商品器具の転載許可願の作成例

2021年 月 日

株式会社××××

広報部　部長　〇〇〇〇　様（宛先については各機関にご確認ください）

 　　 一般社団法人照明学会

照明年報委員会

委員長 秋月有紀

**照明学会誌「照明年報」への転載許可の御願い**

拝啓　時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます．

照明学会では毎年，照明学会誌「照明年報」を発刊いたしておりますが，その内容は，照明分野及び関連分野における活動範囲の項目ごとに，最近1年間の進歩発達の状況を広く国内外にわたり調査し，紹介するものです．

その記事の中に，御社の下記資料を転載させていただきたく，ご承諾くださいますようお願い申し上げます．ご承諾いただける場合は，本書にご署名の上，返信希望日までに照明学会事務局までお送りいただければ幸いです．

なお，転載させていただける場合，必ず参考文献等に出典元を，また写真の場合はタイトルにはコピーライト（Ⓒ）を明記致します．また二次利用は致しません．

ご不明な点がございましたら，下記事務局までご連絡のほど宜しくお願い申し上げます．

 敬具

記

**１．転載許可の範囲**

　https://www.shomei.co.jp/catalog/catalog\_/pdf/（2021.3.1アクセス）

上記パンフレット『照明株式会社　かんたんシリーズパンフレット

・パンフレット上の1ページ目のダウンライト写真（LEET-11111）

・パンフレット23ページ，三段目左上のリモコン写真（FRC-22222）

**２．転載する出版物**

　　2021年9月発刊予定の105巻照明学会誌「照明年報」の第3章3.2施設用器具

**３．本書の返信希望日**

　　2021年5月14日

**４． 連絡先：**

　 一般社団法人照明学会　事務局　編集担当　竹内香寿美

〒101-0048　東京都千代田区神田司町2-8-4 吹田屋ビル3階

TEL：03-5294-0101　FAX：03-5294-0102　E-mail：takeuchi.kasumi@ieij.or.jp

照明学会HP：https://www.ieij.or.jp/

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

上記資料の転載を許可致します．

ご署名

株式会社××××

広報部　部長　〇〇〇〇

　　　　　　　　　　　　　　　2021年5月13日

転載にあたり条件がございましたら，こちらに御記入ください．